

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月3日 NO.65

オー君 「花ちゃん、このごろ星がとってもきれいだね。」

花ちゃん 「モンタ博士のいうとおりだったわね。明るい星が多くて、冬も最高（さいこう）ですね。ちょっと寒（さむ）いけど、星空観察（かんさつ）は楽しいわね。ところで、モンタ博士が今は月が明るくないから『チャンス』と言っていたけど、どういう意味（いみ）が分かる？」



オー君 「今は、お月様があんまり出てないけど……。お月様って、三日月になったり半月になったり、満月（まんげつ）になったりするよね。どういうことだ？」



モンタ博士 「それはね。月は満（み）ち欠（か）けをくりかえしているということなんだよ。半月や満月が出ていると、空が明るくなって、どうしても観察しにくくなるんだ。」



花ちゃん 「それじゃ、ひと月のうちで、星空を観察するのは、いつでもいいってわけじゃないのね。」

モンタ博士 「そうだよ。星空観察には、ひと月の中でも、よい時と悪い時があるのさ。」

オー君 「それじゃ、いつがいいの。」

モンタ博士 「そうだね。今週の終わりから来週の始めころまでがいいね。」

花ちゃん 「つまり月があまり明るくならないということですね。」

モンタ博士 「そうだ。今日が新月（しんげつ）で、10日が上弦（じょうげん）だからね。」

オー君 「新月？上弦？何だ？おいらわからなくなっちゃった。」

花ちゃん 「ともかく、星空観察をするのは、『今でしょ！』ということですね。」

モンタ博士 「そうだね。そして12月はクリスマスから年末年始（ねんまつねんし）のころが星空ウォッチングにはいいということさ。その次にいいのは、1月の終わりから、2月にかけてだね。」

花ちゃん 「はい。わかりました。それで、今ごろは、どんな星や星座があるの。」

オー君 「そりゃ、何と言ってもオリオン座だね。夏の星もいいけど、やっぱり、冬の星だ。その中でも、特にオリオン座は、日本一じゃなかった、世界一じゃなかった。全天一、全宇宙で一番きれいな星座だと思うよ。」

冬の星空の様子をスケッチしよう！

オリオン座ウォッチングボード

2013年12月 日()

方角を書こう

目印になる建物などをこの辺にかこう。

にぎりこぶし1個で約10度

冬の夜の『ラブストーリーは永遠に…』

月の神アルテミスは男まさりの女神で、狩が大好き弓矢の名人でした。狩に行くと、猟師であるオリオンと出会う事が多くなり、二人は親しくなり、いつしかアルテミスはオリオンを慕い、オリオンはアルテミスを想う恋仲となりました。このような様子を知った太陽の神アポロンは、妹のアルテミスのことが心配になり、二人を別れさせようと考えました。ある日、アルテミスの所に行ったアポロンが「近ごろお前とオリオンの事がうわさになっているぞ。」と言うと、アルテミスは「オリオンは、本当にすばらしい友達で、尊敬しております。とても親しく信頼できる方です。」と答えました。アポロンは、「オリオンと会って、遊んでばかりいては、弓の腕前も落ちるぞ。」と言いました。弓の腕前をばかにされたアルテミスは、「そんなことを言うのなら、私の腕前を試してみてください。」と言うと、弓に矢をつがえ、「さあ、お兄さんのおっしゃるどんな的でも射抜いてみましょう。」と言いました。そこで、アポロンが、「では、あの海の上の光っている物を射てみよ。」と言うと、アルテミスは弓をきりきりと引き絞り、矢を放ちました。矢や見事に光っている的に命中しました。

実はこの的こそ海の上を歩いていて渡って行く途中のオリオンだったのです。アポロンは、オリオンをわざと光らせて的にし、アルテミスに撃たせてのでした。的に近寄って見たアルテミスは、このことに気付くと、兄であるアポロンをにらみつけ、オリオンを抱き上げると天に昇って星々の間にオリオンを横たえました。こうしてオリオンは星座になり、いつまでも雄々しい姿で輝くようになったのです。

昔の人は、月が1ヶ月に一度オリオン座のそばを通り過ぎて行く事を知っていて、このようなロマンチックなお話をつくったのです。(注…オリオン座についての神話は他にもいろいろあります。)